

2023年ヒラメ稚魚分布密度調査結果（日本海）について

当研究所では日本海における天然ヒラメの稚魚分布密度調査を1980年から行っており、2023年は7月4日、8月7日、9月4日に桁網（水工研II型）を用いてつがる市沖8点で調査を行いました（図1）。ヒラメの分布密度は桁網の漁獲効率を0.28とすると0-58個体/1,000m²の範囲にありました（表1）。採捕したヒラメの全長組成は7月4日に水深5mで30-39mm、8月7日に水深5mで50-69mm、10mで60-79mm、9月4日に水深5mで70-79mmが主体となっていました（図2）。水深別平均分布密度の最高値を着底指数とすると、2023年は27で、1980年以降の平均値147を下回る水準でした（図3）。

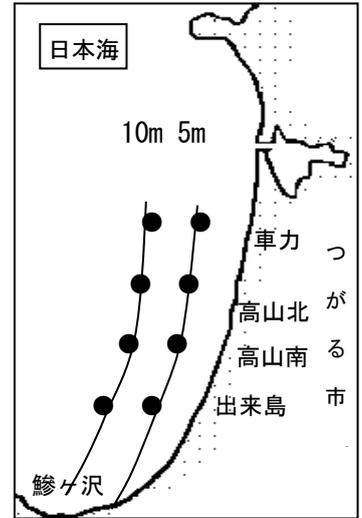


図1 調査地点

表1 ヒラメ稚魚分布密度

日本海										(個体/1,000m ²)	
調査月日/調査点	水深	5m				10m				5m	10m
		出来島	高山南	高山北	車力	出来島	高山南	高山北	車力	平均	平均
2023.7.4	5m	6	3	3	3	3	5	0	0	4	2
2023.8.7	5m	8	58	26	17	14	21	20	40	27	24
2023.9.4	5m	0	5	5	0	0	3	0	0	3	1

* 桁網の漁獲効率を0.28として算出した。

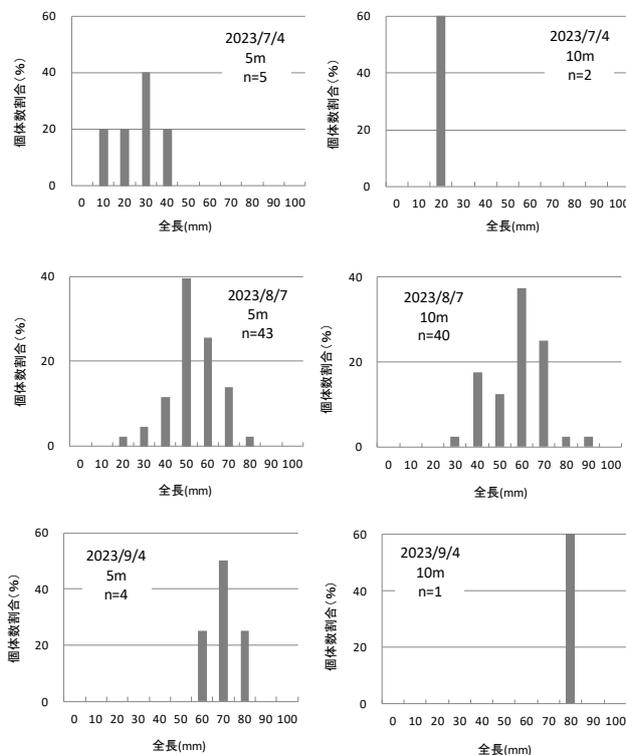


図2 採集したヒラメ稚魚の全長組成

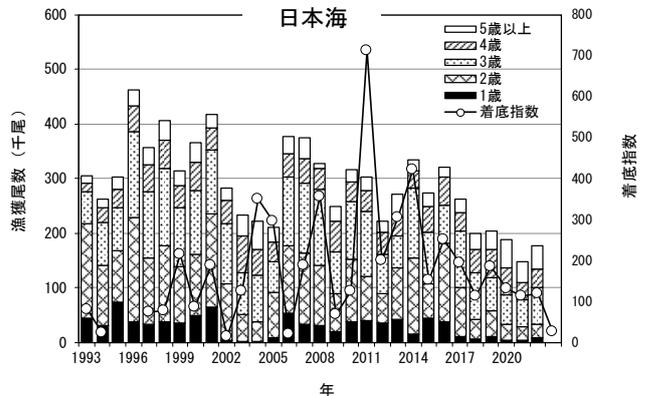


図3 日本海のヒラメ着底指数と年齢別漁獲尾数の推移